第Ⅲ期 左面幕（応龍と霊亀・雷文図）経過報告

令和５年度から令和７年度の３ヶ年をかけて左面幕（応龍と霊亀・雷文図）の復元新調を進めております。

下記に左面幕における復元新調の進捗状況についてご報告申し上げます。

事業期間　：令和５年９月～令和８年３月末
事業費　　：15,700,000 円（税別）
施工業者　：株式会社川島織物セルコン

旧左面幕

左面幕　監修・検討会の進捗状況

令和５年度	
９月	・刺繍下絵の検討 左面幕・正面幕の下絵と完成した正面幕を並べて、左面幕の下絵を検討。 ・刺繍試作の検討 正面幕とつながる応龍の胴部分の試作を検討。 尚、応龍の胴部分の試作と並行して、応龍の顔部分と霊亀の金糸と綴じ糸の組み合わせを検討。

10 月	・刺繍要領について確認 試作の刺繍表現について正面幕と異なる点があったので、前任の刺繍工房のもとへ赴き下地作りの方法などを確認、フェルトなどの材料も入手した。
1 月	・刺繍下絵の検討 左面幕の下絵と新調した正面幕を並べて、左面幕の下絵を検討。 応龍の顔・胴部分、霊亀に使用する金糸と綴じ糸の組み合わせ案を提示。 ・刺繍試作の検討 正面幕とつながる応龍の胴部分の 2 回目の試作を検討。
3 月	・刺繍試作の検討 応龍の顔部分の試作を検討。 →肉作りや切り付け部分など課題が残るので、再度前任者へ確認。 応龍・霊亀の試作を継続。

令和 6 年度	
5 月	・刺繍要領について確認 正面幕からつながる応龍の胴部分の本刺繍を進めるとともに、前任者のもとへ赴き、応龍の顔部分の刺繍要領を教わった。
10 月	・刺繍の検収 正面幕とのつながり部分である応龍の胴部分の刺繍状況を検収。 専門家より、応龍の爪部分を刺繍する際は見た目と丈夫さの両立を図るよう指導があった。 ・左面幕の懸装についての検討
2 月	・刺繍の検収 応龍の胴部分の刺繍作業が進んだので、刺繍状況の検収を実施。 尚、応龍の胴部分の刺繍は 3 月末を目途に終え、その後応龍の顔ならびに脚の刺繍、霊亀の試作に入る。